

てんじしょうかい
展示紹介

カモシカ

2階のとやま空間のたびの展示室の「山地」のコーナーにはカモシカがニホンザルやツキノワグマとともに初夏の森の中で休んでいます。今回は、カモシカを紹介しします。

● カモシカの生活

カモシカは、日本にしかいないほ乳類で、本州、四国、九州の山地にすんでいます。四国、九州では生息数は多くありません。毛皮などをとるため、減ってしまい、1955年に国の特別天然記念物に指定されました。昔は奥山にしかいませんでしたが、次第に分布が広がり、最近では、山麓でもよくみかけるようになりました。単独で行動し、木の芽や葉、草などを食べて生活します。交尾期は秋で、5～6月に1頭の子どもを産み、子どもは1歳まで母親と過ごします。

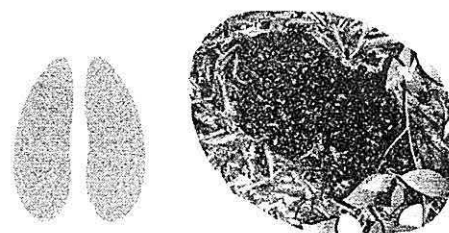
富山県では山地から山麓まで広く分布し、最近では、集落付近に出てきて畑の作物を荒らすことがあり、平野部や海岸近くにも出没することもあります。



● フンを見つけよう

山の林道わきの土の上や河原の砂の上で、ひづめがくいこんだ足跡をみつけることがあります。

フンは、1個1個はやや長い丸い形ですが、同じ場所でするため、古いフンと新しいフンで大きなかたまりになります。

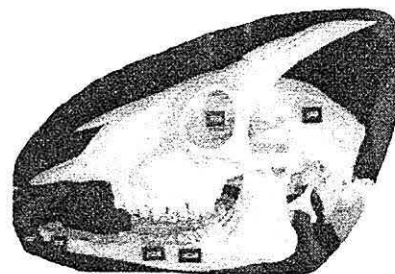


足あと

フンのかたまり

● 骨を調べよう

頭骨をみると、目は顔の両側につき、角が生えています。上あごの先には歯がなく、下あごの先に切歯があり、奥にある臼歯は草をすりつぶすのに適した形です。前足や後ろ足は長くなり走るのに適した形です。指は4本で第1番目の骨がなくなり、第3、4番目の骨が長く、第2、5番目の骨は退化して短くなっています。



(ハク製の前にある引き出しにカモシカの骨が入っています。頭骨や前足や後ろ足の骨をツキノワグマやニホンザルの骨と比較してみてください。引き出しには他にもカモシカが食べた植物があります。)

(2009年9月 南部 久男)